2022年度(2022.4.1.～2023.3.31.)
第5回フクオカシネアスト
世界映画ベスト・テン(＆部門別ベスト)決定！

2023.5.9.

お待たせいたしました。-
≪世界で一番遅く一番早い年度別ベストテン≫
第5回(年度別になって2回目)フクオカシネアスト
2022年度世界映画ベスト・テン(＆部門別ベスト)が
決定しましたのでその内容をお知らせします(敬称略)。

選考対象は2022年4月1日から2023年3月31日迄の1年間に
日本で公開された全(あらゆる)映画(配信及び映画祭限定上映作＋
再公開の旧作を含む／基本公開日は東京)です。

今回は作品ベスト第7位に3作、10位に10作、次点相当20位に
19作が並ぶ大激戦となりました。同率作は邦題五十音順に発表します。

併せて、注目が増す部門別ベスト
[監督、主演男優／女優、助演男優／女優、脚本／脚色、撮影、編集、
作曲、歌曲(カバー含む)、美術、音響、視覚効果]の計14部門も
決まりましたので作品ベスト・テンに続いて発表します。

【世界映画：作品ベスト・テン】
≪第1位≫
『EVERYTHING EVERYWHERE ALL AT ONCE /
エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス/天馬行空』
(米 2022/2023 140分)
ダニエルズ／ダニエル・クワン(米1988.2.10-)
＆ダニエル・シャイナート(米1987.6.7-)
監督・脚本・製作(共同)
484ポイント

≪第2位≫
『Marketa LAZAROVÁ /マルケータ・ラザロヴァー』
(チェコスロバキア1967-2011/2022 160分)
ヴラジスラフ・ヴァンチュラ
(チェコスロバキア1891.6.23-1942.6.1)
原作(1931)
フランチシェク・ヴラーチル
(チェコスロバキア1924.2.19-1999.1.28)
監督・脚色(共同)
445ポイント

≪第3位≫
『BABI YAR CONTEXT / バビ・ヤール』
(オランダ・ウクライナ2021/2022 121分)
セルゲイ・ロズ二ツァ(ウクライナ1964.9.5-)
監督／編集・製作(ともに共同)
388ポイント

≪第4位≫
『Mr. LANDS BERGIS /ミスター・ランズベルギス』
(リトアニア・オランダ2021/2022 248分)
セルゲイ・ロズ二ツァ(上同)
監督・製作(共同)
376ポイント

≪第5位≫
『TITANE / チタン』
(フランス・ベルギー 2021/2022 108分)
ジュリア・デュクルノー(フランス1983.11.18-)
監督・脚本
358ポイント

≪第6位≫
『TOP GUN : MAVERICK / トップガン マーヴェリック』
(米2022 131分)
ジョセフ・コシンスキー(米1974.5.3-)
監督
343ポイント

≪同率：第7位≫
『THE FIRST SLAM DUNK』(日2022 124分)
井上雄彦(日1967.1.12-)
監督・脚本
287ポイント

≪同率：第7位≫
『DONBASS / ドンバス』(仏・独・オランダ・
ルーマニア・ポーランド・ウクライナ2018/2022 121分)
セルゲイ・ロズ二ツァ(上同)
監督・脚本
287ポイント

≪同率：第7位≫
『やまぶき/ YAMABUKI』(日2022 97分)
山﨑樹一郎(日1978.12.11-)
監督・脚本
287ポイント

≪同率：第10位≫
『L'Événement / Happening / あのこと』(仏2021/2022 100分)
アニー・エルノー(仏1940.9.1-)
原作：「事件(邦題)」(2000/2004年早川書房刊併録)
オードレイ・ディヴァン(仏1980-)
監督・脚色(共同)
279ポイント

≪同率：第10位≫
『À bout de souffle / Breathless /
勝手にしやがれ 4Kレストア版』
(仏1960-2020/1960・1980・2016-2022 90分)

フランソワ・トリュフォー(仏1932.2.6-1984.10.21)
原案
ジャン＝リュック・ゴダール(仏1930.12.3-スイス2022.9.13)
監督・脚本
寺尾次郎(日1955.6.11-2018.6.6)
字幕(2016版)
279ポイント

≪同率：第10位≫
『Guillermo del Toro's Pinocchio /
ギレルモ・デル・トロのピノッキオ』
(米・仏・メキシコ2022 117分)
カルロ・コッローディ(伊1826.11.24-1890.10.26)
原作：「ピノッキオの冒険」(1883)
ギレルモ・デル・トロ(メキシコ1964.10.9-)
監督／脚色・製作(ともに共同)
279ポイント

≪同率：第10位≫※
『The Beatles：GET BACK－The Rooftop Performance /
ザ・ビートルズ：ゲット・バック－ルールトップ・コンサート』
(米／元：英・米・ニュージーランド2022 ／2021 65／467分)
ピーター・ジャクソン(ニュージーランド1961.10.31-)
監督・製作(共同)
279ポイント
※2022年1/30.英米IMAXで初公開された今作。日本IMAXでは
同年2/9-2/13の5日間限定上映され大反響を呼び2/25-3/17まで
二度の延長を含めアンコール上映。前年度のランキングでは
第26位でしたが期間外の今年度に同率第10位とナント驚きのベスト
テン入り。今年度分に前年232ポイントを単純に加えると、TOPに
躍り出ます。2021年11月より元の三部作467分ビスタ版配信中の
Disney+にて今作もIMAX Enhanced版でぜひとも配信を。さらには
ガヤを除いたルーフトップ・ライブ演奏のみに特化・再編集した
<シン完全版>も熱望。それをまたIMAXで観ることが出来たら最高。

≪同率：第10位≫※
『Thirteen Lives / 13人の命』(米2022 149分)
※2022年8月5日Amazon Prime Video配信
ロン・ハワード(米1954.3.1-)
監督・製作(共同)
279ポイント

≪同率：第10位≫※
『Im Westen nichts Neues / All Quiet on the Western Front /
西部戦線異状なし』(独・米2022 147分)
※2022年10月28日Netflix配信
エーリヒ・マリア・レマルク
(独1889.6.22-スイス1970.9.25)
原作(1929)
エドワード・ベルガー(西独1970-)
監督／脚色・製作(ともに共同))
279ポイント

≪同率：第10位≫※
『タイタニック25周年3Dリマスター版』
(米2012-2023／オリジナル2D 1997)
※2023年2月2週間限定で日米同時公開
ジェームズ・キャメロン(カナダ1954.8.16-)
監督・脚本／製作・編集(ともに共同)
279ポイント

≪同率：第10位≫
『Moonage Daydream /
デヴィッド・ボウイ ムーンエイジ・デイドリーム』
(米・独20222/023 135分)
ブレット・モーゲン(米1968.10.11-)
監督・製作・編集
279ポイント

≪同率：第10位≫
『VANISHING POINT /
バニシング・ポイント 4Kデジタル・リマスター版』
(米1971-1999/1971-2023 99分)
補〉シャーロット・ランプリング出演・英国公開版106分
リチャード・C・サラフィアン(米1930.4.28-2013.9.18)
監督
ギレルモ・ケイン(ギリェルモ・カブレラ＝インファンテ)
(キューバ1929.4.22-英2005.2.21)
脚本
279ポイント

≪同率：第10位≫
『Ennio / モリコーネ 映画が恋した音楽家』
(伊2021/2023 157分)
エンニオ・モリコーネ(伊1928.11.10.–2020.7.6)
音楽・出演
ジュゼッペ・トルナトーレ(伊1956.5.27-)
監督
279ポイント

≪次点相当同率：第20位≫(19作邦題のみ/五十音順)
『RRR』『アバター：ウェイ・オブ・ウォーター』
(2作共に本国/日本公開2022)『アラビアンナイト
三千年の願い』『生きる LIVING』『エンパイア・オブ・
ライト』(3作共に2022/2023)『ケイコ 目を澄ませて』
(2022)『新生ロシア1991』(2015/2023)『すずめの戸締まり』
(2022)『テス 4Kリマスター版』(1979-2012/1980-2023)
『チャップリンの独裁者』(1940/1960 1973 1986.2022)
『フェイブルマンズ』(2022/2023)『FLEE フリー』
(2021/2022)『BLUE GIANT』(2023)『ベイビー・ブローカー』
(2022)『ボーンズ アンド オール』(2022/2023)『VORTEX』
(2021/2022※フランス映画祭2022横浜で上映)
『未来惑星ザルドス 4Kデジタル・リマスター版』
(1974-2015/1974-2022)『リコリス・ピザ』『わたしは最悪。』

(2作共に2021/2022)

【世界映画：部門別ベスト】
≪Best of Director / 監督≫
『ミスター・ランズベルギス』『バビ・ヤール』
『ドンバス』『新生ロシア1991』4作全てベスト20入り。
Sergei Loznitsa / セルゲイ・ロズニツァ
(ウクライナ/白ロシア共和国＝現ベラルーシ・ブレスト州
1964.9.5-/現在ドイツ在住)

≪Best of Leading Actor / 主演男優≫
『トップガン マーヴェリック』
Tom Cruise / トム・クルーズ
(米ニューヨーク州1962.7.3-)

≪Best of Leading Actress / 主演女優≫
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
Michelle Yeoh / ミシェル・ヨー
(マレーシア・ペラ州1962.8.6-)

≪Best of Supporting Actor / 助演男優：同率3人/年齢順≫
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
James Hong / ジェームズ・ホン
(米ミネソタ州1929.2.22-)
『バビロン』
Brad Pitt / ブラッド・ピット
(米オクラホマ州1963.12.18-)
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
Key Huy Quan / キー・ホイ・クァン
(米/ベトナム・サイゴン1971.8.20-)

≪Best of Supporting Actress / 助演女優：同率3人/年齢順≫
『ベネデッタ』
Charlotte Rampling / シャーロット・ランプリング
(英イングランド・エセックス州1946.2.5-)
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
Jamie Lee Curtis / ジェイミー・リー・カーティス
（米カリフォルニア州1958.11.22-）
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
Stephanie Hsu / ステファニー・スー
(米カリフォルニア州1990.11.25-)

≪Best of Original Screenplay / 脚本(オリジナル)：
同率2組＝3人/五十音順≫
『TITANE / チタン』
Julia Ducournau / ジュリア・デュクルノー
(仏パリ1983.11.18-)
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
Daniels / Daniel Kwan ダニエル・クワン
(米マサチューセッツ州1988.2.10-)＆
Daniel Scheinert ダニエル・シャイナート
(米アラバマ州1987.6.7-)

≪Best of Adapted Screenplay / 脚色(原作あり):
同率2人/五十音順≫
『THE FIRST SLAM DUNK』
井上雄彦 / Takehiko Inoue
(日・鹿児島県伊佐市1967.1.12-)
『BLUE GIANT』
NUMBER 8 / 南波永人
(日・生年他未公表)

≪Best of Cinematographer / 撮影:
同率2人/映画製作年・降順≫
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
Larkin Seiple / ラーキン・サイプル(米1985-)
『マルケータ・ラザロヴァー』
Bedrich "Beda" Batka / ベドジフ・バチュカ/ ベーダ・バトカ
(チェコ・プラハ1922.8.21-米ニューヨーク州1994.6.6)

≪Best of Film Editing / 編集:
同率2人/映画邦題五十音順≫
『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス』
Paul Rogers / ポール・ロジャース
(米・生年未公表)
『デヴィッド・ボウイ ムーンエイジ・デイドリーム』
Brett Morgen / ブレット・モーゲン
(米カリフォルニア州1968.10.11-)

≪Best of Original music Score / 作曲:
同率2人/映画製作年・降順≫
『BLUE GIANT』
Hiromi / 上原ひろみ
(日・静岡県1979.3.26-/現在米国在住)
『マルケータ・ラロヴァー』
Zdenek Liska / ズデニェク・リシュカ
(チェコスロバキア1922.3.16-1983.8.13)

≪Best of Song / 歌曲(カバー含む)≫
『生きるLIVING』
Bill Nighy : The Rowan Tree
ビル・ナイ(英イングランド・サリー州1949.12.12-)
「ナナカマドの樹(木)」(英スコットランド古謡)

≪Best of Production Design / 美術≫
『バビロン』
Florencia Martin / フロレンシア・マーティン
(米1985.10.19-)&
Anthony Carlino / アンソニー・カリーノ
(生年他未公表)

≪Best of Sound / 音響≫
『デヴィッド・ボウイ ムーンエイジ・デイドリーム』

Paul Massey / ポール・マッセイ(英1958.2.10-)
David Giammarco / デヴィッド・ジャンマルコ(カナダ/生年未公表)
Nina Hartstone / ニーナ・ハートストーン(英/前同)
John Warhurst / ジョン・ワーハースト(英/前同)他

≪Best of Visual Effects / 視覚効果≫
『アバター：ウェイ・オブ・ウォーター』
Joe Letteri/ ジョー・レッテリ(米1957-)
Richard Baneham / リチャード・バネハム(アイルランド1970/1971-)
Eric Saindon / エリック・セインドン(米1970.12.5-)
Daniel Barrett / ダニエル・バレット(生年他未公表)他

＜まとめ＞
今年度Best10に入った19作品で、2023年1～3月公開作は
1位に輝いた『エブリシング・エブリウェア・オール・アット・
ワンス』と10位に入った音楽ドキュメンタリー2作の新作3作
＆リマスター版旧作2作の計5作品。配信のみ公開作は2作品。
加えて期間外の2022年2月公開作が1作品入るという驚きも
含めてバラエティーに富んだ結果となりました。年々票数が
増えています部門別ベストも＜納得＞の結果。「映画は映画」
国や新旧・プラットフォームを問わず期間内に日本で公開された
あらゆる映画を対象に選ばれる≪世界で一番遅く一番早い！
年度別世界映画ベスト・テン＆部門別ベスト≫。もう始まって
います2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日公開)が
2022年度に増して一層盛り上がることを祈願して、多くの
ご投票に感謝申し上げます。ありがとうございました。